愛知県立大学で学生さんと学ぶ　どんぐりモンゴリ授業

地域づくりと環境共生　自然に生きる

「加子母（かしも）モデル：完結型林業で地域を興し、若者を育て、豊かな山をつくる」

主催：多文化共生研究所・NPO 法人「どんぐりモンゴリ」

共催：地域連携センター・環境共生研究会

岐阜県の東部、木曽川水系白川沿いにある人口 3,300 人の山間地、数少ないヒノキの天然林があり 94%が山林の加子母。そこで、村の大きな財産であるヒノキの活用、木材産業のために、30 数年かけて独自の家づくりをやってきた。地域と共に、地域の森と共に生き、この地球の営みに自分を合わせるうちに、ハタと気付いた。戦後 60 余年、人も企業も利益を優先する、この日本のあり様。それより、この自然を、この地球を、ここに生きる生物すべてを大切にして、仕事をしたい。私たちはこの地球で生かされているのだから。

■日時　2011 年 1 月 24 日（月）2 時 30 分～4 時

■場所　愛知県立大学　S 201 教室

■スピーカー：中島紀于（なかじま　のりお）

中島工務店社長、NPO 法人「どんぐりモンゴリ」理事

中島紀于氏プロフィール：1944 年 11 月　岐阜県恵那郡加子母村（2005 年の市町村合併により、現在は中津川市行政）で生まれる。1963 年岐阜県立岐阜工業高校土木科卒業、中島工務店入社。急逝した父親を継いで、1968 年㈱中島工務店の代表取締役になる。84 年から、加子母の木を使って、加子母の大工が都会の家造りをする「産直住宅」を進めて成功。現在は、複合経営や関連企業を含めて千人ほどの雇用を提供。職業訓練法人「木匠塾職業訓練協会」理事長として、若者が木造建築を学ぶ職業訓練にも携わる。建築を学ぶ学生や大学院生が木造建築を学ぶ「かしも木匠塾」も実践。過疎化が進む地方で、持続的な産業と地域興し、持続的な環境利用を目指す「加子母モデル」を模索中。

■コメンテーター：角和保明（かくわやすあき）　NPO 法人「どんぐりモンゴリ」理事長

＊「どんぐりモンゴリ」の COP10 継承事業活動及び中島氏の紹介とコメント

角和保明氏プロフィール：1944 年、中国長春市に生まれる。37 年間の建設機械メーカーに勤務中、森の文化、豊かな自然に興味を持ち、早期退職後の 2005 年 12 月、子どもたちと環境保全を学ぶＮＰＯ法人「どんぐりモンゴリ」を設立。毎年どんぐりウォーカー（命を育むどんぐりを学び、苗木を育て、植える人）を 1,500 人以上誕生させている。岐阜県中津川市加子母等の水源地で、子ども達と植林を通じて豊かな森づくり、海づくりの実践活動を行う。黄砂の発生源、中国内蒙古の砂漠で里子支援の子ども達と蒙古ナラの苗木づくりと植林活動を学び、日本語教室を開催している。

■司会：稲村哲也（いなむら　てつや）　外国語学部教授、多文化共生研究所所長

＊「せかい先住民族サミット」(10/15-18) の報告、モリコロパーク公園マネジメント会議の紹介、及び司会。